第 30 回名古屋大学下宿用品リユース市

報告書

名古屋大学下宿用品リユース市実行委員会

2025 年 8 月 25 日作成

はじめに

名古屋大学下宿用品リユース市は、卒業生等からご提供いただいた家具や家電製品等を新たな受け取り手へ引き渡すイベントで、名古屋大学を中心とした地域内での循環型社会の構築を目的に、過去 25 年以上に渡って行われてきました。

感染症の影響もかなり小さくなった第 30 回リユース市は、地域全体で循環型社会を作り上げていくという本来の目的に立ち返り、名古屋大学の卒業生や新入生だけでなく、地域住民や留学生も対象に開催することにいたしました。

準備がスケジュール通りにいかず、多くのミスを起こしてしまいましたが、皆様のお力添えもあり、無事に完遂することができました。活動に協力してくださった名古屋大学異文化交流サークルの ACE・NUFSA の皆様、協賛してくださった株式会社進和の関係者様に厚く御礼申し上げます。

今回の成果を生かし、課題を改善し、さらに効率的で新入生や地域の方が参加しやすいリユース市を目指してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

第 30 回名古屋大学下宿用品リユース市実行委員会　代表
川瀬　菊清貴 (農学部 3 年)

目次----------

I. 概要
II. 目的と目標の達成状況
III. 開催までのスケジュール
IV. 広報
V. 物品提供
VI. オンライン抽選
VII. 前日準備
VIII. 対面開催当日
IX. 物品受取
X. 後日残品セール
XI. 他団体との協力
XII. 株式会社 進和の協賛
XIII. 決算
XIV. 総括

I.　概要

名称

第 30 回名古屋大学下宿用品リユース市 (略称：リユース市)

主催

名古屋大学下宿用品リユース市実行委員会

後援

名古屋市、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学

協力

国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学 (施設・設備の提供)

名古屋大学異文化交流サークル ACE・NUFSA

協賛

株式会社 進和

対面開催日

2025 年 (令和 7 年) 3 月 23 日 (日)

対面開催場所

名古屋大学豊田講堂

開催規模

〈人数規模〉

- 物品提供者数 28 人
- 物品受取者数 51 人
  - オンライン 15 人
  - 対面 34 人
  - 後日残品セール 2 人
- 対面開催来場者数 59 人
- スタッフ数 31 人 (ACE・NUFSA の方を含めない場合 24 人)

〈物品規模〉

- 提供物品数 209 品 (内、抽選対象外 88 品)
- 前年度持越し物品数 6 品
- 受取物品数 182 品
  - オンライン開催 23 品
  - 対面開催 154 品 (内、抽選対象外 68 品)
  - 後日残品セール 5 品
- 廃棄・リサイクル物品数 0 品
- 残品数 33 品 (抽選対象物品 13 品、抽選対象外物品 20 品)

※提供物品は、卒業生や地域の方等からリユース市にご提供いただいた物品を指す。
受取物品は、新入生や地域の方等にお受け取りいただいた物品を指す。

II.　目的と目標の達成状況

目的

環境負荷低減のために、下宿用品のリユースを推進する (達成)

〈自己評価〉

提供された家具・家電等を必要とする人に譲り渡すことができた。一部の物品は受け取られず残ったものの、下宿用品のリユースを推進することで環境負荷の低減に貢献することができたと考える。

目標

広報を積極的に行い、リユース市を多くの人に知ってもらう (一部達成)

〈自己評価〉

広報の手段と対象を拡充した結果、前回と比較して提供者数・受取者数ともに増加させることに成功した。さらに、今回は在学生だけでなく、地域住民や名古屋大学以外の学生にもアプローチをすることができた。一方で、広報開始の遅れやチラシの工夫不足により、期待したほどの利用者の増加は得られなかった。また、新入生への広報も前回より手段を増やしたが、受取希望者数は微増したものの依然として少なかった。広報開始のタイミングを利用者のニーズに合わせて考え、適切な時期に行うことが課題となるだろう。

III. 開催までのスケジュール

9 月　豊田講堂利用申請、対面開催日決定
10 月　企画書作成開始、広告作成開始、物品譲受日・オンライン抽選日決定
11 月　取扱予定物品数等決定、倉庫利用申請、ACE・NUFSA の協力決定
12 月　企画書完成、後援依頼 (名古屋大学)
1 月　広告完成、後援依頼 (名古屋市)
2 月　レンタカー契約、入構申請、物品提供申込開始、物品提供・受取広報、株式会社進和の協賛決定
3 月　レンタカー契約、入構申請、保険契約、物品提供、物品清掃・点検、提供・受取広報、開催準備、オンライン開催、対面開催、物品受取
4 月　物品受取、反省会、残品セール、決算・報告書作成

IV. 広報

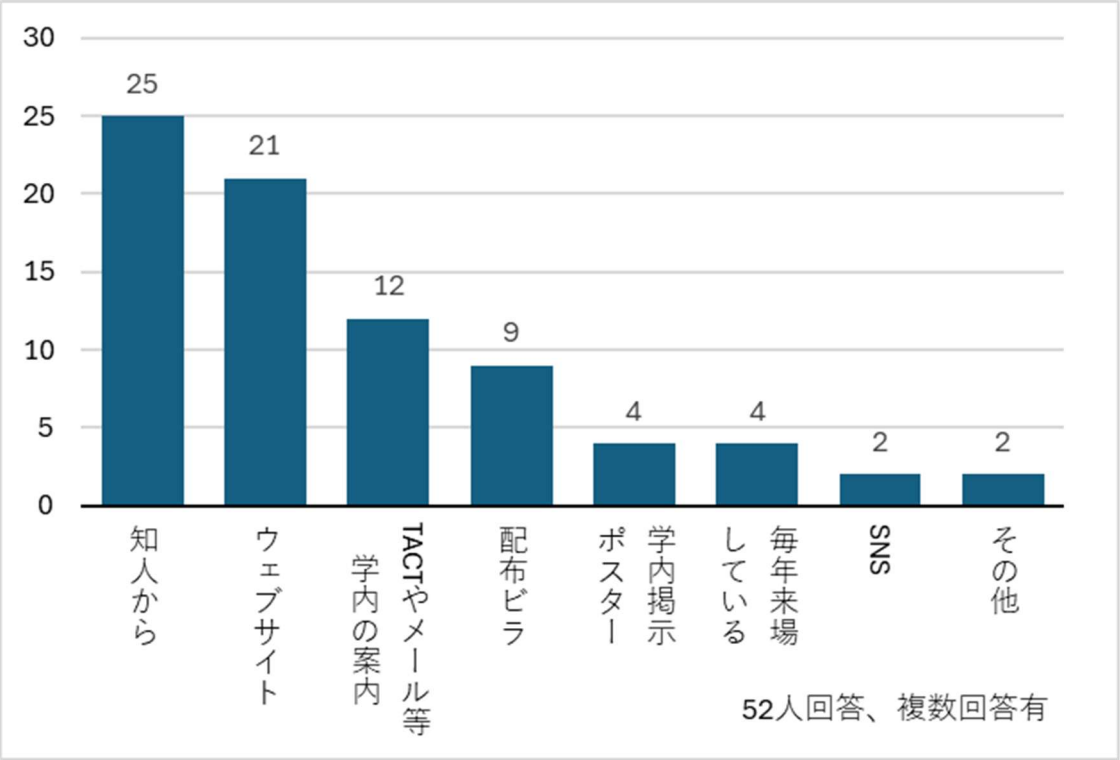
方法・結果

開催と物品の募集を知らせるチラシを作成し、以下の方法で宣伝した。

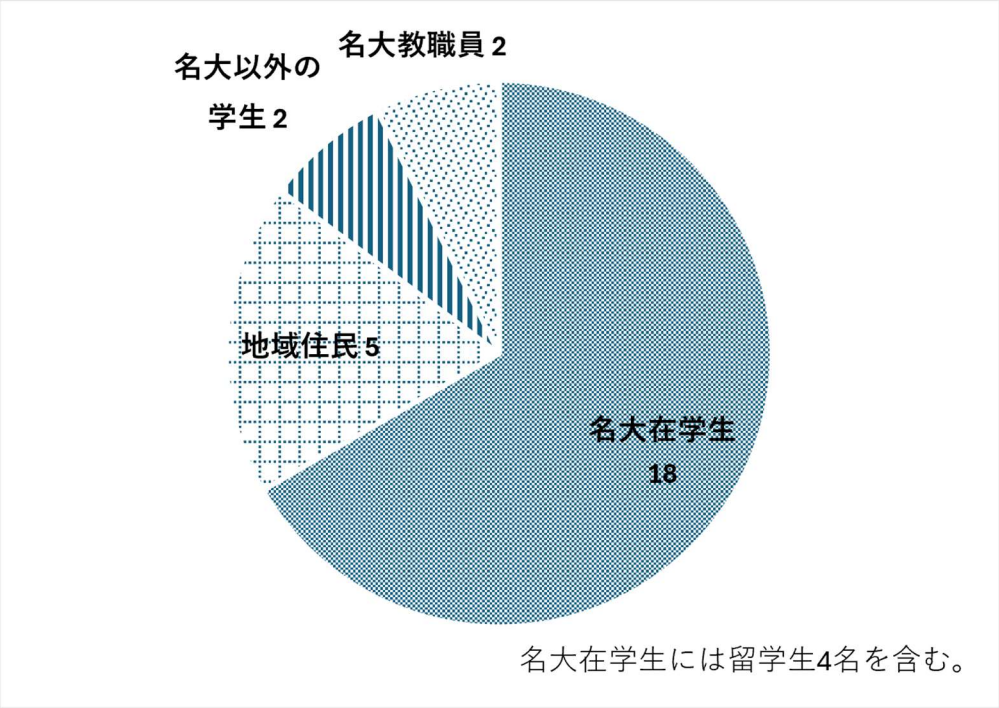
- 名古屋大学生へは、学内掲示や研究室へのチラシ配布を行うだけでなく、教務課に依頼して教務メールによる広告や PDF の送信等の依頼を行った。しかし、学部や学科によって教務メールの扱いが異なっており、一部の学科は廊下でのチラシの掲示にとどまるなど、広告の規模が想定より小さくなってしまったこともあり、広報の効果は限られたと考えられる。
- 新入生へは、全学新入生歓迎実行委員 (以下全新歓) にオブザーバー参加し、チラシを入試合格者へ配布する電子パンフレット類の中に入れさせていただいた。
  また、名古屋大学東山キャンパス近辺の不動産会社 4 社に依頼して 100 部ずつチラシを店頭に置かせていただき、下宿先を探している新入生にチラシを渡していただくようお願いをした。各店舗で具体的に何人の新入生がチラシを受け取ったのかは不明だが、対面開催で来場した新入生の人数が 10 人であったことから今回のリユース市では効果を発揮しなかったと考えられる。
  さらに、新入生へは X や Instagram などの SNS を用いての宣伝もしたが、リユース市開催日が下宿する新入生が入居する時期よりも早かったこともあり、あまり効果は見られなかった。ただし留学生の一部には効果が確認できた。
- 地域の方へは、トラック配送の対象範囲に新聞にチラシを折り込む形で広報を行った。しかし、後述するように、来場者を対象に実施した「どこでリユース市を知ったか」に関するアンケートによると、投じたコストに見合う効果は得られなかったと考えられる。
- 物品提供者及びオンライン・対面開催における物品受取者に対して、「どこで初めてリユース市を知ったか」に関するアンケートを実施した。その回答結果をグラフ 1 に示す。
  グラフ 1 より、「知人から」という回答が最も多かったことが分かる。このことから、リユース市に以前参加した方や、リユース市の関係者等からの口コミによってリユース市を知る方が多いのだと推測される。
  次に多い回答は「ウェブサイト」であった。しかし、リユース市の存在を事前に知らなかった人が偶然そのウェブサイトにたどり着く可能性は低いと考えられる。したがって、何かしら別の広報手段を通じてリユース市の情報に触れ、興味を持った人がウェブサイトにアクセスしたと推測される。また、回答者数は少なかったものの、対面開催時の様子等から、SNS で情報を得ている利用者も一定数存在したと感じられた。
- 物品提供者の所属をグラフ 2 に、オンライン・対面開催における物品受取者の所属をグラフ 3 に示す。共に在学生の利用者数が多いことから、学内の広報を前回より充実させた成果があったと考えられる。一方で、新聞折込チラシでアプローチを図った地域住民の利用者数は少なく、その効果は限定的であったと考えられる。
- ACE・NUFSA からの協力もあり、想定以上に多くの留学生の参加を促すことができた。

課題

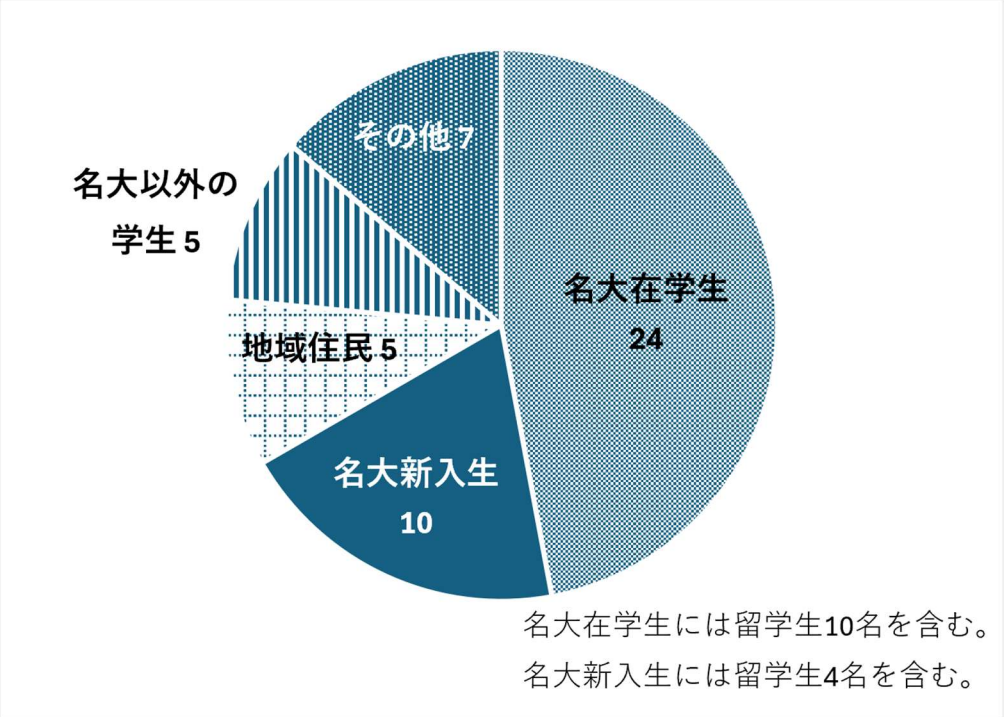
- 広告内容を確定した時期が遅れたため、学内での広報が後ろ倒しになり、結果として宣伝効果が十分に発揮されなかったと考えられる。今後は、12 月までに広告内容を完成させる必要がある。
- 折込チラシについては、一定の効果があった可能性は否定できないものの、コストパフォーマンスが著しく低かったため、再度の実施については慎重な検討を要する。
- チラシとポスターのデザインが同一であり、いずれも白黒であったため、ポスターが本来持つ「通行人の目を引く」効果を十分に発揮できなかったと考えられる。今後は、印象的なデザインおよびキャッチコピーを用いたポスターを、用途に応じて複数種類作成することが望ましい。
- 正確な情報を収集し、今後の広報活動に役立てるためには、アンケート項目の設定を工夫する必要があると考えられる。



グラフ１　どこで初めてリユース市を知ったか



グラフ 2　物品提供者の属性



グラフ 3　物品受取者の属性

V. 物品提供

物品提供者

- 名古屋大学学部及び大学院の卒業生及び在学生、地域住民、並びに株式会社進和社員の皆様

提供対象物品

- 下宿生が使用するのに適した大きさで、再使用に問題がない家具・家電・その他小物。 (詳細な条件に関してはウェブサイトを参照。)
- 目安として、家電は 2015 年以降に製造されたものを提供対象とした。

提供方法

- 提供者に第 2 課外活動共同棟へ持ち込んでいただく「持込提供」、提供者の自宅にトラックでお伺いする「トラック提供」の 2 つの方法で物品をご提供いただいた。環境への影響を考慮しトラックの利用を最小限にするため、HP や広告では「持込提供」を推奨した。
- 提供申込フォームにて、物品の情報・写真を登録していただくとともに、提供方法 (持込またはトラック) の希望を取った。
- 株式会社進和にご協力をお願いし、社員の皆様から物品を募集し、ご提供いただいた。
- 自家用車で来学する提供者に対しては、入構・出構経路の案内を行った。

提供日程

〈持込での提供〉

- 持込での提供は 2 月 16 日 (日) 、19 日 (水) 、3 月 14 日 (金) 、16 日 (日) に実施した。
- 提供者には上記日程の中から都合の良い日時を選んでいただいたが、状況に応じて上記日程外でも対応した。

〈トラックでの提供〉

- トラックでの提供は 2 月 22 日 (土) 、3 月 16 日 (日) に実施した。
- 提供者には上記 3 日間の 9:00〜12:00、13:00〜15:00、15:00〜18:00 の 3 つの時間帯の中から都合の良い日時を選んでいただいた。
- 各時間帯で最大 4 件程度の提供に対応出来るようにルート設計を行った。

物品管理

- ご提供いただいた物品は、以下の場所に搬入した。

2 月 16 日 (日)、19 日 (水)、22 日 (土)	第 2 課外活動共同棟サークル室 15
3 月 14 日 (金)、15 (土)、16 日 (日)	第 2 課外活動共同棟サークル室 8 (※) 、15
4 月 13 日 (日) 以降	第 2 課外活動共同棟サークル室 8 (※)
	※名古屋大学環境サークル Song of Earth の倉庫

- 全ての家具・家電に関して、大まかな清掃・点検を実施した。
- 寸法・状態等について、写真とともにウェブサイト上に掲載した。
- 音楽ドームのサークル室 2 をお借りしたが、大学の入口から音楽ドームまでは距離が長く、往復に時間がかかると判断したため、優先的に第 2 課外活動共同棟サークル室 8、15 を使用した。その結果、提供された物品は全て第 2 課外活動共同棟に搬入することができ、音楽ドームのサークル室 2 は実際には使用しなかった。

VI. オンライン抽選

抽選方法

開催日当日のスタッフの負担軽減のため、オンラインで事前抽選を行った。希望物品の受付は Google フォームで実施した。抽選は Google フォームの回答が記録されているスプレッドシートを用い、第一希望から順に当選させていった。他の人と同じ希望順位に同じ物品が選ばれている人が複数人いた場合は、サイコロで受取者を決めた。より多くの物品を当選させるよう、一人当たりの当選物品数に制限は設けず、他に同一物品を希望する方がいない場合は、別物品に当選した方であっても当選させた。

質問対応は公式 LINE、当選連絡や受取日時等の連絡はメールを使用した。

抽選日程

2 月 24 日 (月) ～ 3 月 7 日 (金)	受取希望者募集
3 月 17 日 (日)	抽選、当落メール送信

VII. 前日準備

- 対面開催当日の運営を円滑に行うため、前日の 3 月 22 日 (土) に準備を実施した。
- 会場の設営、運営方法の確認、物品の清掃、物品の状態の最終確認、リハーサルを行った。

VIII.　対面開催当日

開催場所

　豊田講堂のピロティ (南北) とアトリウム、ホワイエをお借りした。アトリウムで物品の展示や抽選手続きを行い、ピロティでは物品の運送準備を行った。ホワイエは参加者の通路として用いた。

当日の流れ

9:00	スタッフ集合
9:10	打ち合わせ、会場準備 (会場設営・物品の準備)
10:30	開場 (受付開始)
	－物品の展示・抽選・受取－
13:30	残品セール
17:00	閉場・片付け
18:00	撤収

抽選方法

- 希望物品の受付は Google フォームで実施した。二次元コードを会場内に設置し、来場者に希望物品と引き渡し方法の希望を登録していただいた。物品は第 12 希望まで記入できるようにした。抽選の結果発表では個人情報に配慮した。発表時に番号で申込者を呼び出すため、Google Apps Script (GAS) と連携させたフォームで、各回答に通し番号を自動で振るとともに、その番号を申込者の画面に表示される「回答送信完了」メッセージにも同じ番号を表示するように設定した。
    - ○　しかし、後述のトラブルにより当日はこのシステムはうまく動かず、急遽申込者の呼び出しには名前を使用することとした。
- 抽選は Google フォームの回答が記録されているスプレッドシートを用い、第一希望から順に当選させていった。他の人と同じ希望順位に同じ物品が選ばれている人が複数人いた場合は、サイコロで受取者を決めた。より多くの物品を当選させるよう、一人当たりの当選物品数に制限は設けず、他に同一物品を希望する方がいない場合は、別物品に当選した方であっても当選させた。
- 抽選終了後、当選者を名前で一人ずつ当選者窓口に呼び出し、当選内容の連絡を行った。スタッフは手分けして当選者の通し番号を各物品に貼られている物品カードに記入し、当選者に当選した物品を渡した。
- 抽選・発表と受取手続きはそれぞれ 15 分間で行うことを想定し、希望フォームは 1 時間ごとに更新した。

〈課題〉

- 特に 1 回目の抽選に想定より多くの申込があったため、申込受付システムの設計面と運用面の両方において課題が見受けられた。
  設計面においては、ほぼ同時に回答が送られてくることが想定されておらず、1 回目の抽選では、約 20 名から同時に申込があったため、回答の送信に対応した処理が終わらないうちに次の回答が送られてきてしまい、同じ通し番号が複数の回答者の画面に表示される問題が起きた。
  また、申込フォーム回答後の画面において表示される通し番号が小さく、視認性が悪かったため、参加者が自分の通し番号を把握していないという事態につながった。
  運用面においては、参加者への説明不足が課題となった。通し番号が申込フォーム回答後の画面に表示されることの説明が不十分であったことが、参加者の混乱を加速させた。
- 抽選方法にも欠陥があった。一品ずつサイコロを振って抽選する方法では当選者の決定に時間がかかり、抽選から物品受取完了までを 1 回行うのに約 1 時間 30 分ほど要した。
  その結果、予定していた抽選回数を 3 回から 2 回に減らさざるを得なかった上に、抽選担当スタッフの負担が大きかった。今後は申込方法・抽選方法ともに見直す必要がある。また、当選者への物品連絡にも時間がかかってしまい、一部当選者を長時間待たせてしまう結果となった。当選者がすぐに自分が何の物品に当選したのかが確認できるような当選発表の仕組みを検討する必要がある。

【当選物品の受取方法と反省】

当選者には、当選物品を自分で持ち帰るか、トラック配送にするかを選んでいただいた。持ち帰り希望者には必要に応じて台車・リヤカーを貸し出した。

一部の当選者が自家用車で持ち帰るケースが見られたが、自家用車による大学への入構について案内が不十分であったため、来場者の混乱を招いた。ウェブサイト上には「駐車スペースがないため、大学ではなく近隣のコインパーキングをご利用ください」という案内と、「入構後 45 分までは無料です」という情報のみが記載されており、「物品受取時に限り大学構内へ一時的に車を入れることが可能である」といった趣旨が正確に伝わっていなかった。今後、豊田講堂を会場とする際には、駐車場の使用可否を管理者に事前に確認し、来場者の車両入構に関するルールを整理・明示する必要がある。特に、来場者の車による入構についてこれまで一度も議論されていなかった点は、今後の改善に向けた重要な反省点である。

IX. 物品受取

物品受取者

- 名古屋大学学部及び大学院の新入生、在学生及びその保護者、近隣大学の新入生及びその保護者、並びに地域住民

受取方法

- 受取者に第 2 課外活動共同棟または豊田講堂から持ち帰っていただく「持ち帰り」、受取者の自宅にトラックで物品を配送する「トラック配送」の 2 つの方法で物品引き渡しを行った。
- 受取希望フォームにて受取方法 (持ち帰りまたはトラック配送) の希望を取った。提供の場合と同様、環境への影響を考慮しトラックの利用を最小限にするため、HP や広告では「持ち帰り」を推奨した。

受取日程

〈持ち帰り〉

- オンライン抽選で受取者が決定した分の持ち帰りは 3 月 15 日 (土) 、16 日 (日) に実施し、状況に応じて別の日程でも対応した。
- オンライン抽選当選者には上記日程の中から都合の良い日時を選んでいただいた。
- 対面開催当日に受取者が決定した分の持ち帰りは 3 月 23 日 (日) に実施した。

〈トラック配送〉

- オンライン抽選で受取者が決定した分のトラック配送は 3 月 16 日 (日) 、23 日 (日) に実施した。
- オンライン抽選当選者には上記 2 日間の 10:30～12:00、12:00～15:00、15:00～17:00 の 3 つの時間帯の中から都合の良い日時を選んでいただき、各時間帯で最大 4 件程度の配送が出来るようにルート設計を行った。
- 対面開催当日に受取者が決定した分のトラック配送は 3 月 23 日 (日) と 4 月 2 日 (水) に実施した。
- 対面開催当日の抽選当選者には上記 2 日間の 10:00～18:00 のうち、昼休憩の 12:00～13:00 を除いて 1 時間間隔の時間帯の中から都合の良い日時を選んでいただいた。

X. 後日残品セール

次回のリユース市に持ち越す物品を最小限にするとともに、オンライン開催と対面開催の機会を逃した方にも物品を受け取っていただくため、残品セールを開催した。

広報

残品の写真を掲載した広告を作成し、SNS と学内設置の立て看板で残品セールの広報を行った。

受取方法

残品の写真や状態を HP 上の物品リストから確認してもらい、受け取りたい物品がある場合は公式 LINE かメールで連絡していただくようにした。物品の受取者は先着順で決定した。受取日時に関しては、スタッフと受取者の都合がつく時間で臨機応変に決定した。

XI. 他団体との協力

今回のリユース市では、異文化交流サークルである、ACE と NUFSA の 2 団体にご協力いただいた。両団体は、コロナ禍前に開催していた留学生向けのバザーを復活させようとしていらっしゃったところ、リユース市のことを聞き、バザーと類似する活動として運営方法を知りたいとご連絡をくださった。

調整の結果、以下の内容でご協力をいただき、従来は広報の手が届いていなかった留学生の層にもアピールすることができた。

留学生からの物品の提供・受取の応募が前回と比べて増えたことには、この 2 団体の寄与が大きいと考えられる。

〈広報における協力〉

- リユース市広告の英語版作成
- 2 団体の SNS や多くの留学生が在籍する国際棟におけるリユース市の宣伝
- ACE・NUFSA 内でのリユース市の宣伝

〈物品提供日・受取日での協力〉

- 物品提供者、物品受取者への英語対応
- 物品の倉庫への運搬
- 物品カード記入
- 物品清掃

〈対面開催日での協力〉

- 物品の倉庫から豊田講堂への運び込み
- 物品・机の豊田講堂への配置、英語版案内の作成
- 対面開催当日に運営スタッフとして受付、来場者対応、配送手続き、トラック配送、外回り宣伝など
- 会場の片付け、倉庫への備品運びこみ

XII. 株式会社進和の協賛

今回のリユース市は、株式会社進和からの協賛のもとで開催された。株式会社進和の方から、名古屋大学の環境系サークルと協力して環境に関する活動を行いたいとお申し出をいただいたため、私たちのほうから名古屋大学環境サークル Song of Earth の活動とその最も大きいものであるリユース市についてご紹介したところ、本活動についてご賛同を賜り、協賛企業として資金面のご援助をいただけることとなった。以下が協賛の内容である。

〈費用の援助〉

レンタカー代と燃料代、新聞折込に使用する広告の印刷代、そして折込にかかった広告宣伝代の合計 206,722 円の援助

〈備品の援助〉

養生テープ、ビニールひも、手袋など物品の管理運搬に必要な備品の援助

〈物品の提供〉

社内に向けた家具・家電の募集、提供

XIII. 決算

- 今回のリユース市では、配送料をいただかないことにした。
- 株式会社進和から、レンタカー代、燃料費、印刷費、広告宣伝費の援助をいただいた。

収入の部

単位：円

収入		予算金額	決算金額	比較増減
運営カンパ	提供日・受取日カンパ	60,000	48,510	-11,490
	対面開催日カンパ	30,000	36,000	6,000
	その他	0	0	0
配送料		0	0	0
株式会社進和からの援助額		0	206,722	206,722
その他収入 (利子等)		0	0	0
小計		90,000	291,232	201,232
前回繰越金		97,531	97,531	0
合計		187,531	388,763	201,232

支出の部

単位：円

支出		予算金額	決算金額	比較増減
運送費	レンタカー代	50,000	83,600	33,600
	燃料費	1,100	6,333	5,233
	駐車料金	0	4,300	4,300
消耗品費		2,200	3,010	810
備品購入費※1		0	8,827	8,827
通信費		0	0	0
印刷費		25,000	43,093	18,093
スタッフ補助費		5,000	0	-5,000
ウェブサイト維持費		5,000	12,300	7,300
保険料		1,700	1,700	0
物品処分費※2		0	0	0
広告宣伝費		0	78,540	78,540
クリーニング代※3		0	5,280	5,280
小計		90,000	246,983	156,983
予備費		97,531		
次回繰越金			141,780	
合計		187,531	388,763	201,232

※1 備品購入費の内訳は、リユース市団体の銀行印作成費 6,670 円、印鑑ケース代 1,530 円、朱肉代 627 円である。

※2 ウェブサイト維持費とは、リユース市 HP を運営するためレンタルしているサーバーとドメインの契約にかかった費用で、サーバー3 年分の契約料金 9,752 円、ドメイン 1 年分の契約料金 2,548 円の合計である。

※3 広告宣伝費とは、新聞に折込チラシ 21,000 部を入れるのにかかった費用である。

※4 クリーニング代とは、スタッフジャンパー12 着をクリーニングするのにかかった費用である。

XIV. 総括

今回は、名古屋大学を中心とした地域全体で循環型社会を作り上げていくという目的のもと、広報活動に特に力を入れた。

物品提供の広報としては、学内向けには研究室へのビラ配り、学部棟でのポスター掲示、学内メールでの広報を行い、地域住民向けには、新聞への広告の折込を実施した。さらに、異文化交流サークル ACE・NUFSA の皆さんのご協力のもとに留学生へのアプローチを図ったり、株式会社進和様のご協力のもと企業の社員の方々へのアプローチを図ったりと、今まで手が届いていなかった人たちへの広報も行った。その結果、提供物品数が前回から大幅に増加し、提供者数も増加した。提供者の内訳としては、地域住民よりも名古屋大学在学生からの提供が多いという結果になった。物品受取の広報は、広告に提供と開催の両方の内容を掲載していたので、在学生と地域住民には提供の場合と同様の手段で広報を行った。そして新入生には大学の全新歓と不動産会社に協力していただき広報を行った。受取人数は前回から増加し、内訳としては提供の場合と同様に名古屋大学在学生が最も多いという結果となった。提供者数も受取人数も前回と比較して増加したが、コロナ禍以前に開催されたリユース市の提供者数・受取人数には及ばなかった。

広報に関して、今回のリユース市をふまえ次回のリユース市で行うべき広報の改善点を以下に示す。

- ビラを作成する際、提供・受取の募集を同じ紙面に載せるのではなく、提供・受取で別々のチラシとして作成し、それぞれ詳しい説明を掲載する。
- 広報を授業期間中である 12 月下旬〜1 月の間に行うためにビラの内容を 12 月までには決定する。
- 学生寮や生協の施設での広告掲示などを実施することで学内での広報手段をより拡充するとともに、南山大学をはじめとする近隣の大学においても宣伝を行うなど、本学周辺の大学生による物品の提供・受取の増加を目指す。

対面開催当日は来場者数が想定を上回り、事前に考えていた抽選方法では対応しきれず物品の当選から受取までに時間を要するトラブルが発生した。さらに、Google フォームを用いた申込・抽選の不具合により、一部来場者に数時間の待機を強いる事態となったほか、車両入構への対応について事前に十分な議論が行われていなかったため、当日になって急遽対応を検討する場面も見られた。

今回、参加人数規模が拡大したことにより、抽選方法や会場設営を含む新たな課題が顕在化し、前回からの課題であった「準備段階におけるスタッフの負担の大きさ」も十分には解消されなかった。今後は、過去のリユース市の記録を改めて精査し、開催形式の見直しを図るとともに、リユース市をより多くの人に知っていただけるよう広報・運営体制の進化を目指す。また、スタッフの役割分担を明確化し、準備を円滑に進められる体制づくりを行っていきたい。